



読者からの質問、疑問に
お答えするコーナーです。

セカンドオピニオンについて

千葉県医師会理事

六倉朋胤 医師
ししくらともたけ

Q よく耳にする言葉ですが、実際はどういうことかよくわかりません。「セカンドオピニオン」について教えてください。

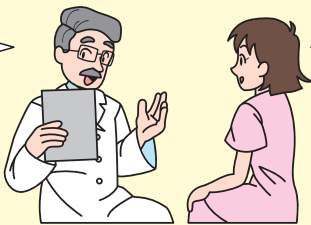
A セカンドオピニオンとは、「主治医（医師）をかえること」ではありません。せん。

「主治医との良好な関係を保ちながら、別の医師の意見を聞くこと」です。

今後の治療方針を 決めるときに…

主治医に相談

今の治療でいいか、
別の治療はないか…



いくつか方法はありますよ。

どうしたらいいでしょう…？

【選択1】

「セカンドオピニオンを受ける」と決めた場合

主治医から検査結果や画像診断、経過などの診断情報を受け取り、希望の専門医などを受診します。

【選択2】

「紹介を受ける（主治医・医院を変更する）」と決めた場合

主治医から紹介を受けるか、自分で医院や医師を探します。

主治医との関係が悪くなることを心配して、自分の意思を言い出せない患者さんもいらっしゃるかもしれませんが、基本的には心配する必要はないはずです。なぜなら、「主治医と患者さんが一緒に治療を選択する」ことがセカンドオピニオンの主軸だからです。

そしてそれは、患者さんにとって最適な医療を、患者さんと主治医の間で判断するために行われることです。通常の医療は、病気について主治医で検査を受け、診断を説明され、今後の治療方針について相談の上で決定します。その時に、主治医の説明に納得できない場合や、主治医が提示した治療ではない治療を希望する場合、他の治療が可能かどうか、別の医師に相談することができるというものです。

その場合にまず「他の医師の意見は聞くけれど、治療は主治医と相談して決めるのか」「他の医療機関への『紹介』を希望するのか」をはっきりとさせなければなりません。

※その病気に対する主治医の変更を希望される場合は「紹介」となります。

（注意）自分が望む治療を提示してくれるまで医師を探し続ける方もいらっしゃいます。見た目には理想的な治療であっても、実際には治療効果が低かったり、予想外の危険を伴う治療もあり、主治医がいない場合はその治療が本当に適切かどうかの判断を自分でしなければなりません。これは「ドクターショッピング」といい、セカンドオピニオンとは異なります。このようなことにならないよう、注意が必要です。